

序 文

願ればわが関西大学は明治19年関西法律学校として発足してより今年に創立90周年の記念すべき年を迎えるに至った。教員僅か数名、学生数十名より出発し、今日専任教員だけでも500名、学生24,000名を数えるに至っている。この発展の跡をたずぬれば幾多先人の血のにじむ努力と苦勞が偲ばれ、感謝の念の尽きないものがある。思うに軽々に逸し去るべき秋ではない。過去への回想とともに将来への展望をもつべきであろう。

今学問研究に焦点を当てて願えば、明治37年には専門学校令にもとづき「私立関西大学」となり、同年経済学科の新設とともに総合大学へ第一歩のをふみ出した。大正11年6月に大学へ昇格するとともに同月「千里山学報」を創刊、学術論文を掲載し、併せて校友・学生の情報交換の場としたものである。昭和4年「関西大学学報」と改称したが、未だ純然たる学術的研究の発表機関誌ではなかった。昭和9年10月、漸く定期刊行の「関西大学研究論集」第1号発行、第7号に至って3部門、即ち、法律・政治篇、経済・商業篇及び文字・哲学篇に分割刊行されることになり、昭和18年まで14号を刊行して隆盛の一途を辿るかと思えたが、惜しくも太平洋戦争により刊行を中断の已むなきに至った。しかし、戦後昭和34年、いち早く「関西大学人文科学論集」の刊行が企画され、昭和35年までに第4号を刊行したが、全学的に専門分野の異なるものが1冊にまとめられていたため利用上の不便があったことは否めない。しかし戦後新制大学となり、各学部のスタッフが充実されるとともに各学部（学会）単独で専門の論文集発行の機運が熟し、昭和25年には経済学、昭和26年には法学及び文学、そして昭和31年には商学の各論集が発足し、その後昭和34年には工学研究報告（英文）、また、昭和42年には社会学論集（後に「社会学部紀要」に改変）が刊行された。これに先立ち、昭和11年創立50周年に当たり記念論文集を発行した。これが本学記念論文集の嚆矢となったのである。その後、昭和30年に創立70周年記念特輯、昭和40年には創立80周年記念特輯、そして、今回の創立90周年記念特輯の発行となった。しかもその間の学部増設に伴い、社会学部紀要ならびに工学研究報告（英文）がそれぞれ加わり、6学部6分冊からな

る論文特輯号という大部なものとなった。

本来、学問研究は大学に課せられた一大任務であり、研究成果の質と多寡は、その大学における使命遂行の密度を物語るといえよう。わが関西大学における論集のかかる飛躍的成長は本学における研究活動の充実発展を示すものである。近年学園は紛争その他多事多端のため、教職員諸氏の手を頼わすことが多く、ために研究の停滞することはないかをひそかに憂えているが、教員諸氏がよくそれに堪えて、この創立90周年記年特輯の発行をみるに至ったことに對して衷心より敬意を表するものである。

そもそも学問の発達は環境に負うところが大きいのであるが、商都大阪の地においては古く江戸時代より、学者は町人社会の自由にして生 新な氣風を受け、当時の儒学者通有の形式的抽象的な思弁の傾向にとらわれることなく学説を展開し、他方町人も經濟活動のうちに養われた実証的合理主義の精神をもってその所説を受けとめたものである。学問が現実と遊離することなく常に接触を保つことによって理論を深めるとともに他方その理論をもって現実を導くことが必要である。

わが関西大学においては、昭和2年の頃より、「学の実化」すなわち学問の理論と實際への応用の調和をもって大学の指導理念としてかかげている。これはいかにも商都大阪の地に咲いた大学の理念としてふさわしいものと考えている。おのずからわが大学の学風は単なる抽象的思弁に走ることなく、堅実な実証主義的傾向をもっている。かかる意味において、わが記念論文集が学界ならびに實際界にも寄与することの大ならんことを祈るものである。

なおわが関西大学は専任教員500名を擁することを思えば、本論集の執筆者はその1部であり、滄海遺珠の憾があることは否めない。とはあれ、本論集の発刊を衷心より祝し、且つ執筆者諸賢に対して満腔の敬意を表する次第である。と同時にわが大学の研究が今後一層の発展をとげることにより人類文化への貢献を期したいものである。

昭和50年11月

關 西 大 學

學 長 明 石 三 郎

序

わが関西大学が本年をもって創立90周年を迎えるので、その記念行事の一つとして、全学をあげて、学術論文集の記念刊行が企画された。創立90周年記念特輯は、各学部ごとに編集された6学部6分冊からなる大論文集となっている。その一冊として上梓されたのがこの「経済論集」記念特輯である。

思えば、今次大戦後、昭和25年11月に、関西大学経済学会は「経済論集」を創刊した。それ以来今日に至るまで、その発刊はうまずたゆまず続けられてきた。その記念論文集としては、すでに「創立70周年記念特輯」、「創立80周年記念特輯」を発刊しており、「創立90周年記念特輯」はみたびの成業である。

わが「経済論集」は、広く、日本の経済学及び経済学関係の諸学会に寄与してきた。過去の「経済論集」に掲載された諸学術論文が多く文献集及び学術論文に紹介、引用、参照されていることをもってしても、このことは明らかであろう。今回の記念特輯に収録された学術論文もまた、経済学関係の各分野での学問進歩に何らかの寄与をなすものと信じて疑わない。

この記念特輯は、現段階でのわが経済学部の学問的水準を示す、輝かしい歴史的記録としての意義をもつものである。もとよりこれをもって満足するものではない。今後も経済学部のスタッフの充実に務め、「経済論集」の誌面を一層充実させなければならない。この記念特輯がそのための礎石となることをも念願するものである。

昭和50年11月

關西大學經濟學部長

東 井 正 美